

『 乳がん検診について 』



最近「乳がん」という言葉を以前に比べよく耳にするようになりました。

現在日本人女性のがん罹患率第1位は乳がんであり、年間約4万人(約20人に1人の割合)の女性が乳がんを患うとされています。要因の一つとして、食生活の欧米化が影響しているという説があります。

しかし、アメリカでは罹患数が増加しているにもかかわらず、死亡数は減少傾向にあります。その理由として、マンモグラフィ検診が普及したためと考えられています。

マンモグラフィとは、乳房を板状の撮影器具で圧迫して、乳腺を平たく伸ばした状態で撮影するX線検査であり、乳がんの早期発見に効果があるとされています。

しかし日本での乳がん検診受診率は、十数%と非常に低いのが現状です。日本人女性で乳がんにかかるリスクが高いのは、仕事や家庭で働き盛りの30～40歳代です。

乳がんは早期発見・早期治療で90%以上が治るとされています。自分の健康と家族の安心のために、年1回の検診にまず一歩踏み出してみましょう。



鹿児島県厚生連

診療放射線技師 村山 明子